

2 文字化の基準・記号の見方

次節「3 各地の方言談話」で報告する茨城県内7地点の方言談話の文字化の基準ならびに文字化に用いた各種記号について説明する。以下に示すものは、平成24年度文化庁委託事業「東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業〈宮城県〉」の取り組みの一環として川越めぐみ氏（東北大学産学官連携研究員）が作成した『伝える、励ます、学ぶ被災地方言会話集文字化の基準・記号の見方』ならびに『宮城県沿岸市町村談話資料作成マニュアル 東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業』に、茨城県の文字化で用いた記号等の説明およびいくつかの例示を加えたものである。川越氏作成の文字化の基準・記号の見方を用いて、茨城県の方言談話の文字化の凡例をここに示すことができたのは、ひとえに宮城県の研究事業代表責任者の小林隆氏（東北大学大学院）ならびに川越氏のご厚意によるものである。

2-1 文字化の概要

文字化に当たっては、方言を文字化したものと、それを共通語訳したものを上下段に並べて表記した。方言は上段にカタカナで表記し、共通語訳は下段に漢字かなまじり表記で記してある。なお、基本的には文節で分ち書きをしてある。

方言音声 → 上段、表音的カタカナ表記
共通語訳 → 下段、漢字かなまじり表記

例：ソー ソンデ ホーゲン デダノカシラ。 ← 上段 方言音声の文字化
そう それで 方言 [は] 出たのかしら。 ← 下段 上段に対する共通語訳

2-2 発話者の表示

① 発話の単位

1人の話者が続けて話している発話で、話者が交替するまでの連続した発話を1発話とした。（発話権が交替するまでが1発話である。）あいづちは別に処理した。

② 発話記号

話者、調査者など、談話の場にいる人物にA、B、C、D～のようにアルファベットで記号をつけてある。

各談話の文字化資料の冒頭には、「話し手」としてA、B、C、D～の話者情報を示す。

③ 発話番号

発話の通し番号を、1発話の話者記号の前に入れてある。

例：001A：～ 012A：～ 123A：～

なお、「自由会話」においては、話題が変わっても発話番号は最後まで通し番号を用いている。場面設定会話については、設定場面ごとに001番から始まる番号となっている（細かな場面においても同様）。

2-3 固有名詞

個人が特定できるような固有名詞、話者名及び一般の人名についてはアルファベットに置き換えてある。

話者 → 「A」「B」などの話者記号を使用

会話中の個人名 → Xを使用。複数出てくる場合は半角数字を後ろに付けて区別(X_n、n=1、2、3、4～)した。

例：X1 チャン、X2 サント～

会話中の屋号 → Yを使用。Y_n、n=1、2、3、4～

会話中の船名 → Sを使用。S_n、n=1、2、3、4～

なお、歴史上の人物、有名人、話者の個人情報に関係しない会社名その他の固有名詞、地名についてはそのまま記載した。

2-4 文字表記の基準

【方言音声の文字化部分】（上段）

表音的カタカナ表記を用いた。音声の方言的特色（キの口蓋化、母音の無声化など）は、特に書き分けることはしていない。

長音：「ー」 例：ソーナンダ（×ソウナンダ）

助詞：「は」→「ワ」 例：アレワ ナンダガ

「を」→「オ」 例：コレオ モツテゲ

「へ」→「エ」 例：ガッコーエ イグ

鼻濁音：半濁点を使用してある。

ガ行鼻濁音「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」

入り渡り鼻音は上付き文字を使用「ンダ」

中舌音：どちらかの音声の近いほうを採用した。

例：スに近いシ → 「シ」

シに近いス → 「ス」

「ア」と「エ」の中間の音については「エァ」「アエ」という表記も許容した。

例：「ネァ（ない）」「ナエ（ない）」

四つ仮名：「ジ」「ズ」に統一した。（「ヂ」「ヅ」は使用していない）

例：「アエズ（あいつ）」

【共通語訳部分】（下段）

意識はできるかぎり行わず、基本的に方言の直訳とした。

漢字かなまじり表記を用いてある。

助詞：ないと読みにくい場合のみ適宜補った。補ったものは[]でくくってある。

？：ないと疑問文と判断しにくい場合のみ適宜補った。

長音：感動詞などにおいては、基本的に長音記号「ー」を使用した。

2-5 記号の見方

【方言文字化の部分】（上段）

- 。（句点）：ポーズがあり、意味的に1つのまとまりを持つ文の最後につけた。
- 、（読点）：基本的に息をついた箇所またはポーズのある箇所に付してある。
読みやすさを重視して付した部分もある。
- （ ）：あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。
例：ソーヤッテ ムガシワネー（B ンダネー）ヤッテダンダー。
- { }：笑い声、咳払い、間などの非言語音。
例：{笑} {咳} {手を叩く音}
- ~~~~~：聞き取れない部分には波線を引いた。
例：オチャズケノ~~~~~
聞き取りが不十分な部分は、聞こえた音を記した箇所に波線を引いてある。
例：コエズカレデ
- _____：発話が重なっている部分には、普通の下線を引く。
あいづちは発話を（ ）に入れ、重なっている部分には下線を引いた。
例：モラッテクダサイ（A ソーダ）（B モラテー）
- =====：発話が重なり、かつ聞き取れない部分には、二重下線を引いた。
例：アイズ _____（B ホンテ）オドゲデネーゴド
発話が重なって聞き取りが不十分な部分は該当箇所に二重下線を引いた。
例：アイズ キタナー（B ホンテ）オドゲデネーゴド
- []：注記。[]内の数字は注記番号。本文の後に注記をまとめてある。
地域特有の語や表現の意味用法を説明したり、談話に登場する主な人物、場所、屋号、船名などを説明している。その他、特に注意しておきたい音声的特徴などに使用したものもある。
例：ムガシワ サンザンサ [1] エッタゲンド
例：カーチャンノミセ [2]。

【共通語訳部分】（下段）

- 。（句点）：ポーズがあり、意味的に1つのまとまりを持つ文の最後につけた。
- 、（読点）：基本的に息をついた箇所またはポーズのある箇所に付してある。
読みやすさを重視して付した部分もある。
- ？：疑問文であることがわかりにくい箇所に適宜使用する。
例：チャー エギサ エッタナ。
今日 駅に 行ったの？
- （ ）：あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。
例：ヒトグミダケナンダト。（A アー）ダカラ ハヤグ、チッテ。
一組だけなのだ。（A ああ）だから 早く、 といって。
- { }：笑い声、咳払い、間などの非言語音。（一部のあいづちを含む）「{笑} {咳} {手を叩く音}」のように示す。
例：イチンチグレ ジャナクテ ナンツー {笑} {C 咳}

- 一日ぐらい じゃなくて 何という {笑} {C 咳}
- ×××× : 言い間違いや言いよどみなど、共通語訳ができない部分。
 例：ム ム ムツカシー
 × × 難しい
- ~~~~~ : 聞き取れず、共通語訳も不明な部分には波線を引いた。
 聞き取りが不十分で共通語訳も不十分な部分は該当箇所の下線を引いた。
 例：ツナミ ~~~~~ ネクテ
 津波 ~~~~~ なくて
- _____ : 発話が重なっている部分には、方言の部分に準じて下線を引いた。
 例 005A : ア一。
ああ。
 006B : ソレオ イレデ。
それを 入れて。
- ===== : 発話が重なっており、聞き取れない、または聞き取りが不十分であり、共通語訳も不明な部分には、方言の部分に準じて二重下線を引いた。
 例：ビョーギ _____ (B _____) シタンダ。
 病気 _____ (B _____) したんだ。
- ////// : 対応する共通語訳が不明な部分。
 できるだけ注記を入れるなどして、話の流れはわかるようにした。
 例：モーゼーノ モジナンデスナ。
 //// 文字なんですね。
- [] : 方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。
 例：ミカン ノセテ
 みかん [を] 乗せて
 ※ 意味の説明や意識にも使用した。その場合は「=」を付してある。
 例：イマ ユー
 今 いう [=今話題にあがった]

